

研究のあり方について

1 がんセンターの研究・治験の状況

(1) がんセンター内の研究実施件数 (H29 年度)

213 件

(基礎研究は行っておらず、橋渡し研究と臨床研究を実施)

(2) 研究部で実施している研究実施件数

7 件(橋渡し研究に特化)

【現在実施している研究項目】

研究項目	共同研究先
婦人科腫瘍発がんメカニズムの解明	神戸大学、神戸薬科大学、慶応義塾大学先端医科学研究所
難治性悪性腫瘍に対する中性子捕捉療法 (BNCT) の臨床応用	神戸学院大学薬学部、神戸大学整形外科
細胞診自動化システムの開発	(株) シスメックス
全自動遺伝子検出システムの開発	(株) シスメックス
早期肺がんのリスク層別化の研究	- (院内研究)
血液中のマイクロ RNA を用いた癌の診断技術開発	(株) 東レ
新規腫瘍マーカーを用いた婦人科腫瘍の診断技術開発	(株) 東ソー

(3) 治験の実施件数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
治験稼働件数	53	62	76	85	87
第Ⅰ相	2	2	1	4	5
第Ⅱ相	23	27	33	31	27
第Ⅲ相	28	33	42	50	55

2 研究機能の変遷

(1) 変遷の内容

H1.4 成人病臨床研究所開設

人員(正規)：医師4、その他1

予 算：99,197千円



H14.3 成人病臨床研究所廃止

H14.4～成人病センター(現がんセンター)研究部設置

人員(正規)：医師1

予 算：-(原則として、試薬購入等の実費のみ)

(2) 背景・理由

① H12.2 行財政構造改革推進方策

《試験研究機関全般の評価基準》

- ・基礎研究は原則として廃止
- ・具体的な成果をあげることが困難で、県施策への反映が見込めない業務は廃止 等

《県立成人病臨床研究所の見直し内容》

- ・現研究所は廃止し、がんを中心とした効果的な研究体制への移行を検討する

② H13.2 県立試験研究機関・中期事業計画

《県立成人病臨床研究所の今後果たすべき役割》

研究所としては廃止し、当分の間、がん及び代謝系疾患に関する医療技術の臨床応用研究等の機能を県立成人病センターで担う

《組織の統合再編の基本的考え方》

- ・成人病の研究の対象分野は広範囲にわたっており、現行の研究体制では十分な成果が期待できないことから、現研究所は廃止する
- ・がんを中心とした臨床研究は、効果的な研究体制への移行を図るため、県立成人病センターに「研究部」として再編の上、新たに開設する「県立粒子線医療センター」(仮称)と連携しつつ、継続する

3 「1」「2」を踏まえた今後の研究のあり方

県行革の方針を十分踏まえつつ、可能な限り最新のがん医療に対応していくため、新がんセンターの研究機能は以下の方向で充実を図ることとし、その実現に向け、人員も含めた必要な体制整備を行う。

- ① バイオバンクで保存されている豊富で質の高い臨床検体や、がんゲノム医療で蓄積された遺伝子情報を活用する
- ② 橋渡し研究や、先進的な治験などの臨床研究に特化する
- ③ 連携大学院や共同研究の拡大をはじめ、大学・企業等と積極的な連携体制を構築する